

# 人物描画の指導法について

## — 本学児童教育学科学生の実例より —

### A study on Teaching Method of Figure Drawing “The Case of Early Childhood Education Students in Tokyo Women's Junior College of Physical Education”

宿輪 忍生

#### I はじめに

本学児童教育学科の学生の描画力については、長年筆者が研究テーマとしてきた課題である。毎年、新入生にいくつかの絵を描かせて描画力をみているが、「描けない」、「苦手だ」という学生が多い。1995年、本学紀要に「青年期における描画力についての一考察」<sup>1)</sup>と題してまとめ、学生の実態と授業の実践から描画力の研究を行い報告した。その時のアンケート結果では、高校で美術を選択しなかったもの—73%、美術が嫌いな者—43%であったがこの数値は現在もほぼ同じような状況である。その時の考察では原因の一つにそれまでの教育や社会の問題が大きいとしたが、10年余りを経た現在、それだけでは解決にはならず、実際の指導法の研究が大切であると考えている。又、近年の入学生の多様化により残念ながらますます描画力は低下している現状である。2年間という短い在学中に描画力をつけるにはどのような指導法が有効であるか、毎年度の授業を通して試行錯誤を重ねてきた。

現在、描画に関する授業は、1年次の「造形表現」で「略画」として人物、建物、乗り物、動物の基本的な描き方を教え、幼児に親しめる絵が描けるような内容を指導している。2年次では<sup>注1)</sup>「図画工作」の授業で創作絵本を制作しているが、絵を描くことが苦手なために思うような作品が作れないという声も多い。そこで関節が動く人型を作らせて様々なポーズを作り、動きを理解しながら人物を描ける様に指導している。すなわち2年

間で動きのある人物が描ける描画力を身につけることが一つの指導目標である。

ここでとりあげた描画力は創造的な絵画一般を指すのではなく、「イメージした形や動きを的確に表現できる力」と限定した。以上のような前提のもとに実施した今年度の「略画Ⅰ—人物」の授業の実践の調査・分析と結果から、描画力向上のための指導法について考察して報告する。

#### II 研究の方法

対象 児童教育学科1年70名  
日時 2007年4月及び10月  
授業 造形表現

##### 調査—1

4月の最初の「造形表現」の授業で出席した入学生全員に簡単な自己紹介の文と事前指導や条件は一切なしで、各人自由に15分間で「走る人」を描かせた。「走る人」を選んだ理由は人物表現の中でも、動きや角度が描けるかどうか分かり易いためである。その結果を筆者の判断でA, B, Cの3グループに分類した。

##### 調査—2

10月最初の「造形表現」の授業で「略画Ⅰ—人物」を指導後、次ぎの週に何も資料を見ないで「走る人」を15分ほどで描かせ、その結果をまたA, B, Cの3グループに分けて調査—1と2の絵の比較を行った。同時にアンケートを行いその

結果から、学生の実態を調査して人物表現の授業の検証を行った。

なお、調査人数の70名は、調査1と2の両方の授業に出席した学生の人数である。

### III 調査の結果と考察

#### 1. 調査-1の結果

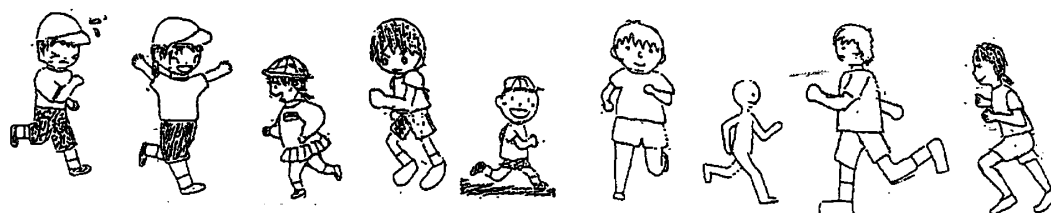
Aグループ（良く描けている） 5名（7%）

Bグループ（まあ描けている） 22名（31.4%）

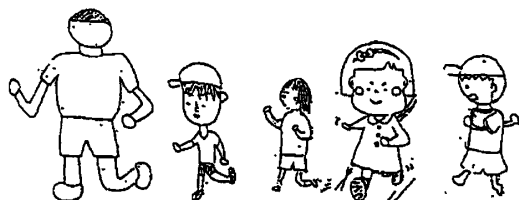
Cグループ（描けていない） 43名（61.4%）

入学生に何の指導もせず、いきなり描かせたも

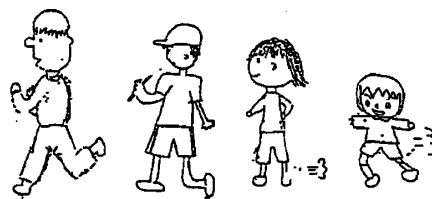
ので多様な表現がみられた。一枚の絵の中に“よく描けている部分”“おかしい部分”が混在し、分類はかなり困難であったが「走っている」動きと「人物らしさが」が描けているかを判定基準とした。服を着て男女の性差を具体的に表現した者、49名。マンガ的表現、12名。輪郭のみの表現、7名。棒人間の表現、2名。その他（犬を描いた）、1名であった。イラストやマンガ的な絵でも、基本の動きができていて、見て違和感がなければA、Bグループとした。図1は「走る人」が描けているか描けていないかを分類し、描けていないもののうちどこが描けていないのかの代表的ものをまとめたものである。



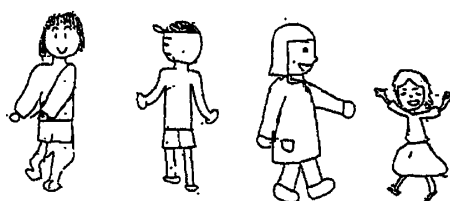
① 走っている



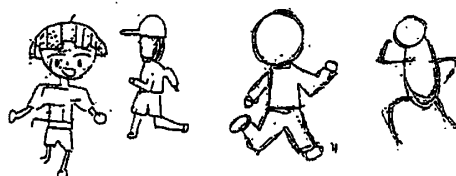
② プロポーションが変



③ 角度が変



④ 走っていない



⑤ 描けない

図1 調査-1の結果の描けてないところの分類

## 2. 調査-2の内容

「略画1-人物」の授業は下記の方法で行った。

(1コマ、90分の内容である)。

### ①「略画1-人物」

- ・人物模型で人間のプロポーション、関節の動くところ、前向き、横向きの角度を説明した。
- ・人物模型は実際の人物のプロポーションであるため、幼児向けのイラストとしてのプロポーションを大人5頭身、子ども3～4頭身位にするとかわいい絵になることをプリントで説明した。
- ・5頭身、3頭身それぞれで頭と肩幅の関係、身体の中心はお臍、手は伸ばすと太もものところなどプロポーションを説明した。頭身を縮めても動くところ、関節などは変わらないことを説明した。
- ・ボールに直角に交わる円周を描き、顔の中心や目の位置、様々な角度の変化を説明した。
- ・特に横向きになると手や足はどう見えるかなど重なりについて説明した。

### ②プロポーションを理解して固まりと棒でプリントを見ながら基本形を描く。

### ③肉付けして具体的な人間にする。

### ④プリントの例を見ながら様々なポーズを描いてみる。

### ⑤自分でポーズを考え棒人間から具体的な人間を描いてみる。

### ⑥宿題として、幼児と大人(親、先生など)を場面を設定して描いてくる。

### ⑦その後の授業でもう一度「走る人」を描く。

Cグループ→Bグループ 19名

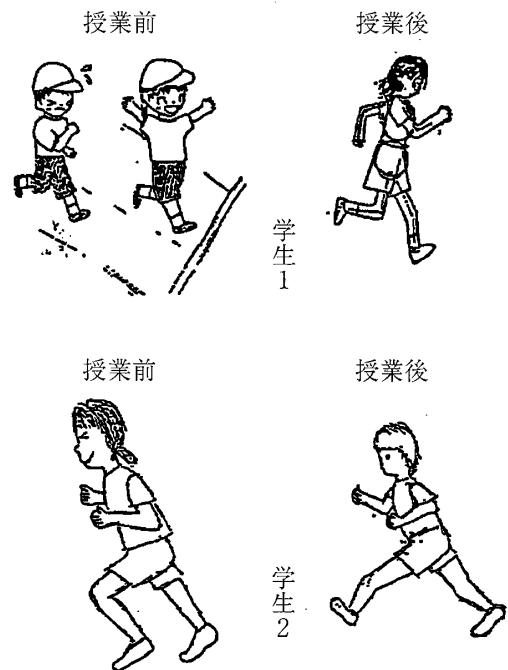
Cグループ→Cグループ 10名

BグループからAグループ、CグループからA、Bグループへと上達した者が合計43名で61.4%の学生に授業の成果がみられた。CグループからAグループになったものの中には資料を見ながら描いたと思われるものが4名いた。見て描けばかなり描けることが分かるが今回は見ないで描くことが条件だったためこの4名については不正確ではあるが分類上C→Aのグループに入れた。一方22名は上達がほとんど見られず変わらなかった。図2-図7は上達の変化の例である。プロポーション、角度、動き、全体のバランスなどについて、授業の内容を理解し努力した結果を示している。その変化を比較した絵を見て、筆者のコメントを付け加え、学生の感想を記載する。

図2

A→A

もともと基本的な動きが分かっていたが、今回更によりよく走っている様子が描けていた。



学生1：手と足のバランスと指が難しかった。子

## 3. 調査-2の結果

Aグループ(良く描けている) 29名(41.4%)

Bグループ(まあ描けている) 31名(44.2%)

Cグループ(描けていない) 10名(14%)

であった。詳しくみると

Aグループ→Aグループ 5名

Bグループ→Aグループ 10名

Bグループ→Bグループ 12名

Bグループ→Cグループ 0名

Cグループ→Aグループ 14名

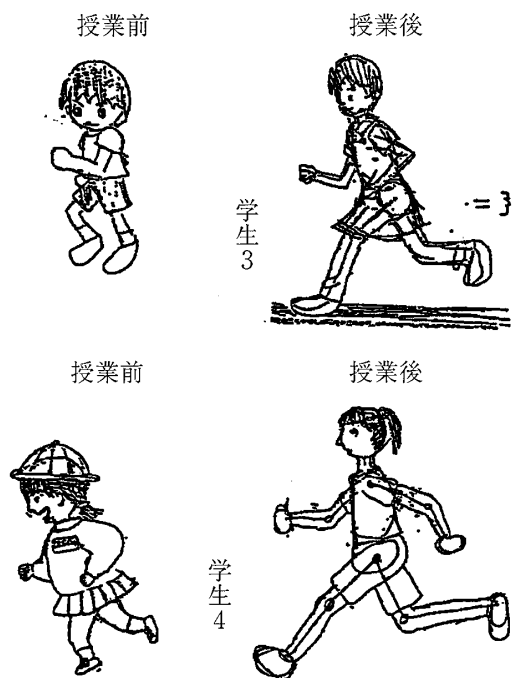
どもと大人の大きさのバランスが難しいけど少し描けるようになってきたので良かった。

学生2：足と手の長さのバランスが難しかった。ただ立っているところだけでなく動作をしている所が描けて面白かった。プロポーション、バランスが以前より分かるようになった。

図3

B→A

動きは描けているがプロポーションが多少不安定だったり、マンガ的であったりしたもののが、今回は人物らしくしっかりと描けていた。



学生3：手は難しい。首から肩の服は難しい。人の絵はすごく難しい。でもこの授業を受けて少し上手くなった気がする。

学生4：手の長さが短くなってしまって、全体のバランスがとれない。身体の骨組みを先に描くことによって身体の構造は大体良くなってきた。でも全体のバランスがまだ上手く描けない。特に頭の大きさ、手の長さはバランスがとりにくい。

図4

B→B

いくらか動きに変化や上達が見られたがプロポーションや角度がまだ不十分であった。



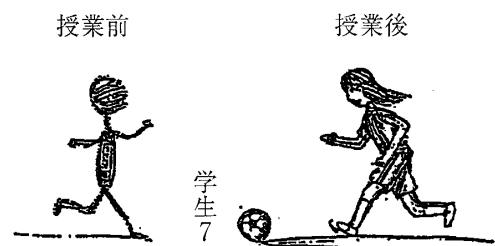
学生5：いまだにバランス等がよく分からないので難しかった。子どもに見せられるような絵が描けるようにしたい。

学生6：身体が上手く描けなかった。足の向きなどよく分からなかった。人の顔や身体を描くことはすごく苦手だったので大変だった。

図5

C→A

棒人間やマンガ的であったものが、動き、プロポーション、角度、ともにしっかりと描けて上達のはっきり見られた。もともと動きに関してはいくらか分かっていたものと思われる。



授業前

授業後

学生  
8

学生7：手、目、洋服のしわも難しい。前より上手くなったと思うので満足である。

学生8：手と足の動きが難しかった。前より全体のプロポーションについて分かってきた。人の動きを描くことはとても難しいのだなあと感じた。

図6

C→B

プロポーションも角度もおかしかったが、今回は走っている人間になっていた。まだ多少不安定ではあるが努力の後ははっきりとみられた。

授業前

授業後

学生  
9

授業前

授業後

学生  
10

通して少しは上手に描けるようになったと思う。

学生10：顔の頑張り、全体的に難しかった。前より形をとれるようになった。でも、どうやって描いたらもっと上手くなるのだろう。練習しようと思う。

図7

C→C

全くといってよいほど走るポーズが描けていなかったが、今回は多少動きが描けていた。しかしこれではまだまだ描けたとはいえず不十分であった。

授業前

授業後

学生  
11

授業前

授業後

学生  
12

学生11：バランスが悪い。思うように描けない。頭にイメージできない。

学生12：上手くかけない。足と手が変わった。自分的にはうまくいところがない。人物は本当に描くのは難しい。

学生9：前より上手に描けるようになったと思う。手が出ている位置などプロポーションが難しかった。人物を描くのは苦手だが授業を

#### 4. アンケート結果

アンケートは15の項目について行った。

問1.「絵を描くことが好きですか」…38%が「好き」、「まあ好き」と答えている。

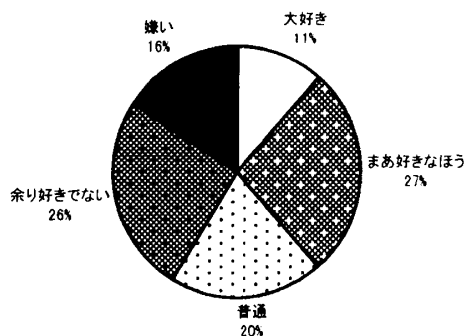


図8 絵を描くことが好きですか

問2.「人物を描くことが好きですか」…「好き」は10%になり「余り好きでない」「嫌い」が61%と大きく増えて人物画は苦手であることが分かる。

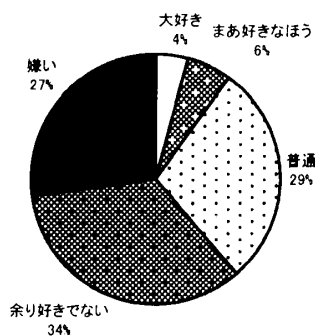


図9 人物を描くことは好きですか

問3.「高校時代、美術を選択しましたか」…71%が全く選択してなくて、美術の勉強は中学以来である者が多い。

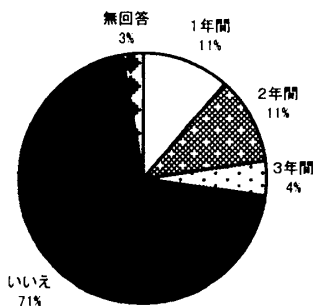


図10 高校時代、美術を選択しましたか

問4.「人物全体を描く指導を受けましたか」…「はい」が31%、「いいえ」が26%、「覚えていない」は42%であった。

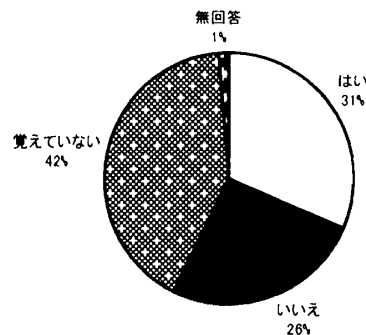


図11 これまで(小～高校まで)に人物全体を描く指導を受けましたか

問5.「人物全体を見て描いたことがありますか」…「はい」が45%、「いいえ」は30%、「覚えていないもの」24%であった。小、中学校の頃のことは記憶が薄いか、もともと関心もなかったのであろうと思われる。

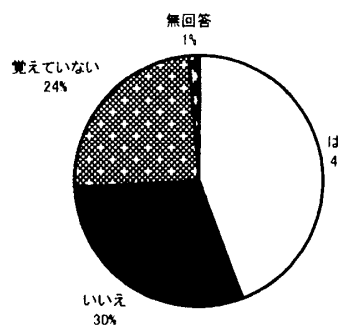


図12 これまで(小～高校まで)に人物全体を見て描く指導を受けましたか

問6.「絵をかくことが上手になりたいですか」…86%が「はい」と答えているが、「どちらともいえない」も11%いる。

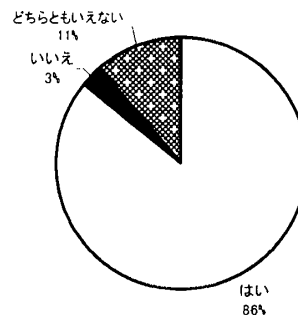


図13 絵を描くことが上手になりたいですか

問7.「人物を描くとき一番難しいところは」…  
「全て」と答えた者が40%もいて苦手意識が  
分かる。

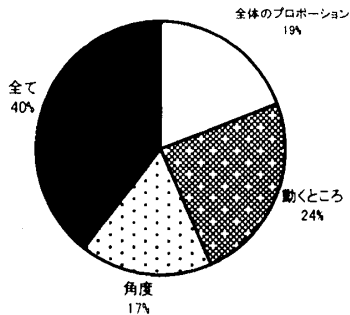


図14 人物を描くときあなたにとって一番難しいところは(複数○可)

問8.「今回の授業で分かったことは」…「プロポーション」40%、「角度」26%、「動くところ」25%の順で「あまり分からなかった」と答えたものも7%いた。

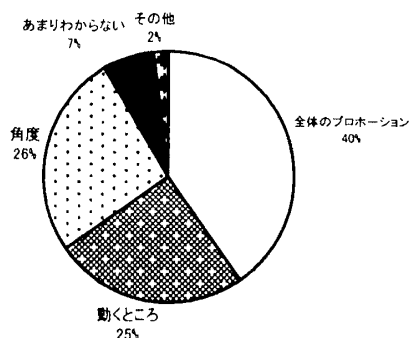


図15 今回の人物の略画の授業でわかったことは(複数○可)

問9.「以前に描いたものと変わったところは」…  
「プロポーション」が一番多く41%、「角度」  
「動き」と答えた者も14%いた。

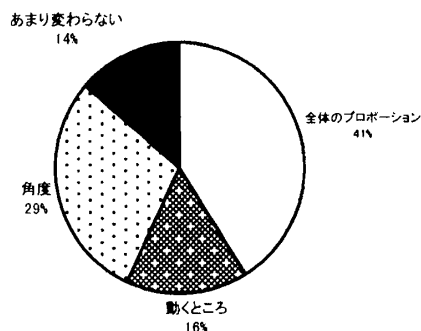


図16 以前に描いたものと変わったところは(複数○可)

問10.「この授業で自分でも上手くなったなと思いますか」…「はい」が27%、「いいえ」が10%、「どちらともいえない」が62%もいた。上達はかなりみられたのに、あまり意識されてない状況である。

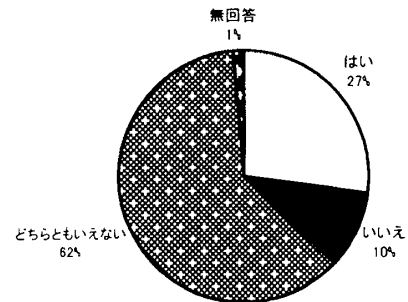


図17 この授業後、自分でも上手になったな、上達したなと思いますか

問11.「もっと時間をかけて練習したいですか」…「はい」が58%と半数を超えているが、「いいえ」「どちらともいえない」も42%もいる。

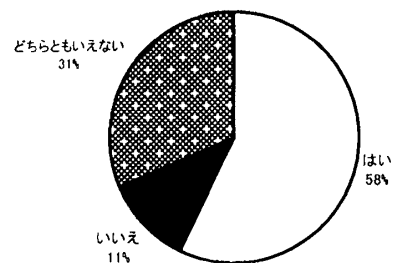


図18 もっと時間をかけ練習したいですか

問12.「教師になったとき、絵を描く力は必要だと思いますか」…95%が「はい」と答えている。

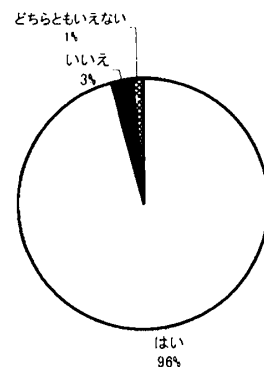


図19 教師になったとき、絵を描く力は必要だと思いますか

問 13. 「授業は分かりやすく理解できましたか」  
 …83 %が「はい」と答えており、授業は有効だったといえる。

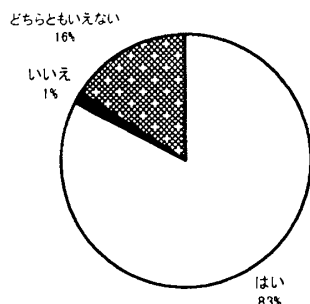


図 20 授業はわかりやすく理解できましたか

問 14. 「実際の人物を見て描いてみたいですか」  
 …「はい」は27 %に留まり「いいえ」「どちらともいえない」が79 %もいた。

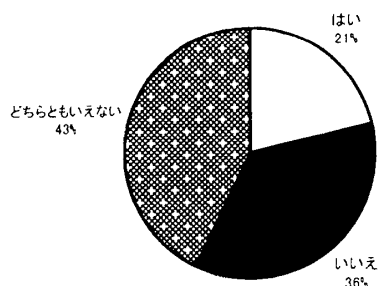


図 21 実際の人物を見て描いてみたいですか

問 15. 「イメージで描くことと見て描くことを比較すると」…「見て描くほうが描き易い」がイメージを大きくはなして73 %であった。「見て描くほうが描き易いといいながらも、余り進んで見て描きたいと思わない」「上手になりたいと思いつつも積極的な意欲はない」という実態が分かった。

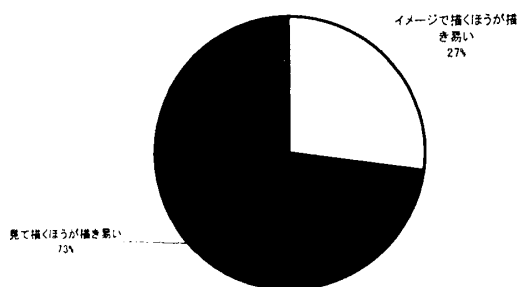


図 22 イメージで描くことと見て描くことを比較すると

## 5 調査-2の考察

以上の結果から全体として、「絵を描く力は必要、上手になりたいしもっと練習もしたい。授業はよく分かり理解できたし前より描けるようになった。でも人物画は本当に難しい。まだまだよく描けない」という学生が多いことが分かった。授業の結果を分析してみて、今回の指導法の効果はひとまずあったと思われる。調査-2では①プロポーション、②角度、③動くところ、の3点をポイントとして描く練習をしたがこの3点のポイントを意識し把握するだけで基本が理解でき、人物を描く方法がいくらか分かったのではないだろうか。これまではこのような方法を教えられておらず、全く知らなかった学生が多かったようである。これらは美術の分野の中でも教えられる部分であり、練習することで自分のものにでき、さらに力をつけることができるのである。理解して練習を重ねることが、描画力を養う道である。しかし変化が見られなかった者については、「何が分からなかったか」、「難しかったか」を今後更に調査してより細やかな指導をする必要がある。なお今回の指導法は「基礎がなく描画のための十分な時間がとれない学生」への指導法である。本来、描画力は実際のものを見て、感じて描くことで身につけることが一番有効的である。美術大学では人物モデルを見て描くことにより、絵画の基礎を学ぶことが多いのは、自分の目で、視覚、感覚を通して学ぶことが最も大切な基本だからである。それが十分できない状況では今回のような指導が一つの方法ともいえよう。他の方法としては「描いてみよう、人のからだと動き」<sup>2)</sup>のようなハウトゥ本も多く出版されているので、自分にあった本から学ぶこともよい。そのためには基礎を理解しないとただ表面的な絵になり、応用がきかないものになることが多いので注意が必要である。

今回この研究を行うことによって学生自身の問題だけではなく、小学校からの教育課程や教員養成のための学習内容にもいくつかの問題があることが分かった。



(1) 小学校の「図画工作」の教科書<sup>3) 4) 5)</sup>を調べてみると以前は必ずあった素描、クロッキーなどがどの学年にも全くないことが分かった。平成11年の学習指導要領<sup>6)</sup>の改訂により、図工の時間も1、2年生はそのままだが3、4年生で年間10時間、5、6年生で20時間も減らされた。当然内容も減り「造形遊び」などより遊びに近いものが増えたのである。描画力、素描力は小学校中、高学年頃養われなければならない大事な基礎能力であるのにどうしてなくなったのだろうか。調査対象の現在の1年生は、小学校でそのゆとり教育を受けた学生ではないが、今後入学してくる学生には更に図工の基礎能力の乏しさが懸念される。

(2) 短期大学で使用する造形表現の教科書<sup>7)</sup>には教師自身の描画力を養うような内容はほとんどなく、子どもに教える内容だけである。教師として絵を描く力は必要と感じている学生がほとんどであるのになぜなのだろうか。理由の一つは今さら描画力をつけることは困難であり、必要ないと考えられていることである。描画力が教員養成の内容から抜け落ちていることは問題であり教師自身のスキルアップは常に必要であると思われる。授業のためのプリントだけでなく副本としての教科書的なものや描画ノートのようなもので練習を重ねることが大事である。そのためにももう少し描画のための時間を増やすことも検討しなければならない課題である。

(3) 保育士試験の保育実習(絵画)の実技試験<sup>8)</sup>ではここ何年も人物画が出題されている。保育士と幼児のふれ合いの場面を描くというもので、大人と子どもの描きわけや動作、状況の表現が焦点である。このことから人物表現が保育や幼児教育の現場でも重視されていることが分かる。しかも45分という短い時間内に色鉛筆で彩色までしなければならない。問題は大枠が前もって示されているが、これまで絵などほとんど描いたことがない受験生にはかなり厳しい内容である。そのために受験生は練習に多くの時間をさき努力している。

幼稚園教諭免許を取得したものはこの実技試験<sup>注2)</sup>は免除されているが、それは幼稚園教諭免許取得者はこの実技試験に合格する力があるものと判断されているからと推測される。しかし実際は合格する力があるものが何人いるか疑問である。

#### IV まとめ

人物画は子どもがものの心つくとまず描くモチーフのひとつである。子どもが描く人物は視覚的に捕らえたものではなく、概念としての人物画である。学生はすでに年令的に視覚的に捉えた写実的な絵が描けるはずであるが、前回の研究(紀要30号1995)のようにその教育は曖昧なままで十分になされていない。5~6才児の図式期の絵で止まっている者も見られる。視覚的概念を獲得していく試行錯誤の段階がなされず、絵が描けない、嫌い、下手で自信がないまま教職につくことは残念である。学生がこれから描画力をつけるには本人の自覚や努力によるところが大きいだが、教員を目指す学生にとって必要な知識や技術をどのように提供すればよいのか——その指導法については今後も継続して研究していかなければならない。

#### 参考文献

- 1) 宿輪忍生(1995)「青年期における描画力についての一考察」東京女子体育大学紀要30号
- 2) キャラクターズ・ハウス(1981)「描いてみよう人のかたちと動き」高橋書店
- 3) 「あたらしい図画工作」1年~6年(2006)東京書籍
- 4) 「図画工作」1年~6年(2006)開隆堂出版
- 5) 「図画工作」1年~6年(2006)日本文教出版
- 6) 小学校学習指導要領 図画工作編(1999)文部科学省
- 7) 「造形表現の指導」村内哲二編(2002)建帛社

8) 平成19年度保育士試験実施要項 全国保育士  
養成協議会

注1) 来年度、今回の調査対象の学生が2年にな  
ってこの授業を行い、更に調査する予定である。

注2) 「保育士試験実施要項」による。…幼稚園教  
諭免許を取得したものは保育実習の実技試験  
(絵画、音楽、言語の3分野のうち2分野を選択)  
が免除されている。この実技試験は筆記試験に  
すべて合格しているもののみ行うものである。